

metuliferus E. Mey ex Schred. Curr. Sci. 41: 33-35. — 1974a. Structure and development of the seed coat in Cucurbitaceae V. Seeds of *Melothria* Linn. Bull. Bot. Soc. Bengal 28: 47-56. — 1974b. Structure and development of seed coat in Cucurbitaceae IX. Seeds of *Corallocarpus kedrostis* and *Ibervillea*. Bull. Torrey Bot. Club 101: 78-82.

* * * *

ウリ科の *Cucumis trigonus* と *Mukia scabrella* の花粉形成と種子形成とを報告した。胚珠は2枚の珠皮をもち厚層珠心である。*Cucumis trigonus* の胚嚢形成は *Polygonum* type で、*Mukia scabrella* では *Allium* type である。胚乳形成は nuclear type で、形成の途中に珠孔側に細胞膜が形成され、それが次第にカラザ側に及び、カラザ側には多核の細長い吸取器が作られる。胚形成は *onagrad* type である。種皮は外珠皮のみから作られ、内珠皮は消失する。外珠皮の外側の層は柔細胞からなる外種皮を作り、内側は厚膜細胞からなる内果皮を作る。

○高等植物分布資料 (107) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (107).

○キブネダイオウ *Rumex nepalensis* Sprengel var. *Andreanus* (Makino) Kitamura newly found in Okayama Pref. of western Honshu キブネダイオウは京都北郊の貴船で見出され、これまで京都附近にしか知られておらず、大陸の *R. nepalensis* に最も近いことから、北村博士は植物分類地理 16: 194 (1956); 26: 141 (1975) で果して天然の野生であるか疑が残ると記されている。ところが本年 (1983) 6月5日、古瀬義氏が岡山県備中町布瀬 (フセ) でキブネダイオウの果実をつけた標本を採集された。同氏によれば、本年4月杉林の中でその若葉をみて奇異に思い、その後二度同地を訪れようやく他のギンギンと異なることが分ったという。同地域では岩窟溪の溪流の辺りや上布瀬の杉の植林や田畦に群生していて、ヤマトレンギョウ、チョウジガマズミ、キクガラクサ、アズマガヤ、クロタキカズラなども採集された由である。このことからキブネダイオウも、他のアジア大陸と関連の深い植物と共にこの地域に遺存したものと推察され大変興味深い発見である。今回その標本を送って下った古瀬氏にお礼を申し述べると同時に、同氏の炯眼と熱意に敬意を表する次第である。

(東京大学総合研究資料館 原 寛 Hiroshi HARA)